

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年4月15日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400115
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム まごころ
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1-238 (電話) 0994-32-6676
自己評価作成日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年3月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「まごころ」「寄り添い」「支えあい」を目標に日々ケアに努めている。一見安易な言葉にも感じるが、その一つ一つに重みを感じながら入居者様と関わり、そして自分たちが入居者様から成長させて頂いていることに感謝しながらケアを行っている。その感謝を忘れずに、自分たちが入居者の自己実現に近づけるよう、職員一丸となってチームケアに努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### <理念の共有と実践>

- ・年に5回程度、管理者による個別面談を実施し、理念や事業所の年度目標、職員の立てた個人目標の達成状況について確認している。
- ・認知症の外部研修に参加した際に、日々のケアの実践のためには理念の共有が欠かせないことを学び、改めて理念の重要性について考える事ができた。
- ・理念を共有し実践につなげられるよう、昨年「真心、寄り添い、支え合い」の理念が背中にかかれたポロシャツを着て業務を行っている。

#### <食事や入浴、外出について>

- ・本人の希望する生活が送れるよう、食事は献立を決める際に利用者にリクエストを聞き、メニューに取り入れたり、外食に出かけるようにしている。
- ・また、入浴についても入居前の入浴状況に合わせ、朝風呂や夕食後に入浴したい希望がある場合には対応している。
- ・外出については、季節を感じてもらえるような外出先を選定したり、日常的に散歩や近くのスーパーまで歩いて買い物に出かけるなどしている。また、歩行が難しい方には車いすや車椅子対応車を準備して室内ばかりで過ごすことなく、適度に外気浴を楽しみながら過ごせるよう配慮している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関に掲げ、出勤時は常に黙認できる環境作りに努めている。また理念がなぜ必要なのか、定期的に職員全員で話し合い、チームとしての方向性にずれがないか確認している。	認知症研修会でグループホームにおける理念の重要性について再確認したことで、職員全員で内容や現状について話し合う機会をもった。年度目標や個人目標を毎年設定し、年に数回の個別面談で、各々目標達成について振り返りを行い、理念・目標の確認をし、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美容室、近くのスーパー、民生員、市役所、保育園と定期的に交流が図れるように、行事等への参加を促し行っている。	地域行事である「おんだんこら祭り」や垂水市民会館で行われる文化祭の見学、事業所主催の夏祭りや敬老会に家族や友人知人、地域住民に参加して頂き交流している。最近、近隣の保育園との交流をはじめ、訪問してもらう機会を次年度は増やす計画もあり、交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	介護相談所として、地域の拠点となれるよう努力をしている。また認知症サポーターの職員も地域のサポーター養成など積極的に参加している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政機関、民生員、ご家族等が参加してホームの状況等報告して、互いの連携、開かれた施設を目指して行っている。	家族や行政職員、民生委員らの参加のほか、隣接する小規模多機能ホームと合同で開催しており、事業所の活動内容の報告や外部評価の結果報告等行っている。メンバーから行事の広報に力を入れてはとの意見を頂き、民生委員や振興会長の協力体制の強化を図ることにつながった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議ではサービスの実情を報告し、助言、協力を頂いている。また定期的に市役所を訪問し、現状、また行政からの情報収集を行っている。</p>	<p>行政職員とは運営推進会議や介護認定申請、相談事がある時に訪問するほか、週1回は訪問して事業所の実情を報告している。また、昨年からは行政が中心となり、タブレットを活用した情報共有システムが導入されたことで、日常的に情報交換を行い連携を密にとっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内で身体拘束委員会があり、他事業所間での情報共有等を行っている。ここ最近では「言葉の拘束」が多発していることから、職員同士での声掛け、互いに注意など行い、防止に取り組んでいる。</p>	<p>毎月、法人内の身体拘束委員会があり、身体拘束の状況について確認しあっている。事業所においてもケア会議にて言葉による拘束を中心とした話し合いを繰り返し行うことで職員の意識付けを図り、お互いに注意喚起しながら利用者の自由な暮らしを損なわない支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年に1回必ず事業所内研修でも課題に挙げ、防止に努めている。また職員一人一人が機会を深め虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内での勉強会に必ず参加している。また職員間で報告を行い情報共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に説明を行い、退去や重度化、ターミナルケアに関して医療との連携体制などは丁寧に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の普段の会話から抽出して反映できるものに対しては、積極的に行えるようにしている。	日頃の言動から本人の思いを汲み取るように努め、家族からは面会時や家族会等の機会に意見や要望を伺っている。本年は外食など外出の機会を増やして欲しいとの意見に対応した。また、定期的に行事の写真を掲載されたホーム便りを家族に郵送し、意見をもらう機会につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃の職員との会話から不満、要望、意見等を聞いてできるだけ反映するようにしている。	管理者は職員が意見を出しやすいよう普段から職場の雰囲気作りに努め、朝礼や2ヵ月毎の個別面談において意見・要望を聞き取り、全体会議で検討している。一日の過ごし方を当日のリーダーが決めるという意見があがり、各利用者に合わせたレクを考え、それぞれのペースで日課を過ごせるように工夫した。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場へ定期的に足を運び、施設運営の状況、職員の事を常に気にかけている。また資格取得、研修参加などスキルアップの環境面も充実している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「個人目標シート」を活用して、個々に応じた教育など行い、スキルアップできる環境作りに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>タブレットを使用して他事業所との連携、また定期的に行われる研修会に参加し、情報交換に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面では警戒するのは当たり前。でも時間をかけて過ごすことで互いを理解し信頼関係ができるものなので、その方のペースに合わせて信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族も不満なのは一緒。そのことをしっかり受け止めて、ご家族と接し関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確保しながら徐々にサービスにつなげられるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の家、自分の家族とっていただけるように、洗濯ものや野菜の収穫、料理などを指導して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来ていただけるように、笑顔とあいさつは力をいれている。また来ただけではなく、その都度近況報告などを行い、少しでも不安解消につなげるように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室、スーパーへ出かけている。時よりご家族の協力も頂き、住み慣れた近所などへ出かけている。	馴染みの場所や人間関係を把握し、自宅への帰宅や美容室、お墓参り等を家族と事業所が協力し合い支援している。また、個別に希望する電話の取り次ぎや訪問支援など、可能な限り対応することでなじみの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士のテーブルの位置関係を工夫している。環境の変化に気を付けて、楽しい時間が過ごせるよう努力している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が途切れないように、出会った時などは積極的に声掛けを行い、近況報告などを行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望などは、必ず時間の経過とともに変化するものと考え、何気ない会話から抽出できるように職員と連携を図っている。	日常で見せる言動から本人の思いや意向を把握するよう努め、家族来所時に一緒に面談することで、意見や希望を聞き取っている。また、入浴時は会話も弾むことから、思いを汲み取る大切な時間として接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握するために、本人、ご家族などの話を聞いて現状把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフのペース、施設のペースにならないように個々ができるだけ自立した生活が送れるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議等において定期的に意見交換を行っている。また日々の実績記録において適切なサービス展開ができていくか、情報の共有にも努めている。	利用者の状態を毎月のケア会議で確認し、3ヵ月毎にモニタリングを実施・記録している。また、当日のリーダーが介護計画の達成度を確認している。介護計画作は、入退院等で状態が変化した場合は随時作り直し、現状に即した介護計画となるよう努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに生活状況、本人の言葉や身体変化、受診結果を記入。また排泄、バイタル、ヒヤリハットなど連絡帳などにも記載して情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の都合により病院受診などホームが行うこともある。また医療機関との連携も充実しており定期往診も実施されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の要望に応じて豊かな生活が送れるように、民生員、消防と協力しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設も医療法人ではあるが、慣れ親しんだ主治医など入居者によってさまざまであるが、しっかり連携ができるよう心掛けている。	個別のかかりつけ医を受診できるよう家族と職員が協力し受診を支援している。往診の場合は様子や服薬状況等が記入された往診ノートを基に情報を伝え、連絡ノートや介護記録に記載することで情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常時看護スタッフはいないが、外来、老健等の看護師とはすぐに連絡体制が図れるようにしている。状態変化等の場合は報告をこまめに行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時のサマリー、退院前のカンファレンスなど医療機関との連携に不具合がないように心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の思いをしっかりと受け止めて主治医、看護師との意見の踏まえながら行っている。</p>	<p>入居時に「ターミナルケア指針」を説明し、入居後も状況に応じ繰り返し確認している。今年2月に看取りを支援した際は個別対応方針をマニュアル化し職員間で共有したほか、主治医や看護師とも情報交換を密に取ることができたため、落ち着いて利用者・家族と接し向き合うことができた。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所内研修において定期的に行っている。また起こってしまったあとの対応（連絡体制等）定期的に確認作業は行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に3回避難訓練を行い、近隣住民、民生員、行政など消防の立会いの下で実施し、助言、協力体制の確認を行っている。</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を隣接事業所と合同で実施し、近隣企業の職員や民生員らの参加も得られた。また、管理者は職員が避難経路を把握しているかを随時確認するなどしている。備蓄については、米や飲料水のほか、シチューやカレーなど業務用缶詰で50食以上分確保するなど十分な量が備えられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から何気ない会話でも細心の注意をはらい、対応を行っている。	権利擁護や接遇については法人内研修に参加し、毎月のケア会議においても繰り返し確認し合っている。管理者は日頃の対応で、間違っていると感じた際はその都度注意し、何がいけなかったのかを考えてもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択、入浴の有無など生活の場において必ず選択肢が持てる支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンは一人一人が異なることから、その方が自分らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	男性なら髭剃り、女性はお化粧品など積極的に行えるように声掛けなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はおいしく、バランスよく食べられる様、メニューの立案を行っている。また昼食時はスタッフも業務をやめて入居者の間に入って食べている。	調理の下ごしらえや準備を利用者と職員が共に行い、同じメニューの食事を一緒に会話を楽しみながら食べている。利用者アンケートや聞き取りで好みを把握し、栄養バランスを考えた献立を作成している。行事食の提供や旬の食材の利用、外食、手作りのおやつなど、食べる楽しみを大切に考え工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態などには配慮している。また食事のバランスなど管理栄養士の助言をもらいながら行っている。水分摂取など記録などを毎回記載し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて行える方は行って頂き、できない方は仕上げなどの支援を行っている。また定期的に歯科衛生士の指導を受けて清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	脱おむつを目標にできるだけおむつを使用せず、排泄できるようなケアに努めている。	排泄チェック表を参考に日中はトイレでの排泄を中心に、個々のタイミングを見計らい誘導している。おむつをつけるようになって退院された場合には、おむつ外しの工夫を職員で話し合い、こまめにトイレ誘導するなどの対応で自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足にならないように、自己の歩行訓練、集団体操に努めている。また排泄記録表の記載などはその都度行い、お茶の時間などにオリゴ糖などを使用したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本的に本人の自己選択の元行う。また日中に入りたいとも限らず要望においては夕方行ったりもしている。	特に入浴日は設けておらず、本人の希望によって朝風呂や夜間の入浴にも対応している。入浴を拒まれた場合は、声のかけ方やタイミングを見計らい誘うなど、無理強いしないよう気を配り対応している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度設定、明かりの加減など本人様の落ち着く環境づくりに心がけている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に決められた用法、用量で支援を行っている。自己服薬できる方、介助が必要な方などそれぞれに応じた支援、またバイタル変化など定期的に主治医へ報告行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の草むしり、野菜の収穫、小物作成、料理の手伝いなどそれぞれの役割をしっかりと持たせ、日々充実感が持てるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物に行きたい。お寺に行きたいなど様々な要望にできるだけ対応している。またご家族にも協力して頂き、家族でできることは家族でも行って頂いている。	初詣や花見、地域行事である「おんだんこら祭り」、外食や保育園児との交流など年間行事計画に組み入れて出かけている。また、事業所周辺の海沿いを散歩したり、近隣のスーパーまで歩いて買い物に出かけるなど日常的に外出の機会を持ち、地域の方々との挨拶や会話を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様には管理支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも自由に電話は行っている。また手紙などの希望があった場合などは要望に沿って支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じてロールカーテン、障子を閉めたり、温度計の設置、食堂に関しては天井も高く圧迫感もないと思われる。またホールには工作で制作した作品などを展示しいつでも楽しめるように配慮している。	フロアの天井は高くとても開放的で明るく、壁には季節の作品が飾られており、作品作りの様子が感じ取れる。畳部屋には立派な雛飾りが置かれ、季節を感じる部屋作りを工夫している。夜間は廊下の壁灯をつけて事故予防につなげており、こまめな換気や空気清浄機で感染症予防にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	自由に過ごせるように、和室、ソファの活用、また音楽を聴いたり本を読んだり気兼ねなく過ごせるように努力している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ダンス、ベット以外はお一人お一人自由設置をお願いしている。昔からなじみのあるものや写真など落ち着ける居室になるように配慮している。	入居前に自宅で使用していた馴染みの家具を持ち込んでもらい、自由に配置し過ごしてもらっている。担当職員が利用者や家族と話し合い、部屋の配置や飾り付けを手伝っており、掃除も手すり等は特に念入りに行っている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	障害物を取り除いて、できるだけ自立して生活が送れるように廊下には手すりを設置して、トイレ、浴室、居室にはわかりやすいように目印をつけている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない